



おがわかずま  
れいわ 小川一馬 議員



## 山武市の海岸について

**問** 海水浴場の今後の在り方に関する市の方針について伺います。

**答** 産業振興部長 今後の海岸の有効的な活用方法に関しては、地元地域の皆様と市観光協会と話し合いを重ね、市内5か所の海水浴場開設の在り方も含めて、検討していきたいと考えています。

**問** 県内では、木更津市の潮干狩り場が有名ですが、例えば、一部の海岸で限定開設するなど、本市の海岸でも、ハマグリや潮干狩り場を開設してはどうかと考えますが、市の見解を伺います。

**答** 産業振興部長 九十九里浜には、漁業権が設定されており、一般の方は、ハマグリやナガラミなどを採ることはできません。潮干狩り場を開設するためには、漁業権について、九十九里漁業協同組合や地元地域の皆様との調整

が不可欠となりますので、今後、実現の可能性も含めて、九十九里漁業協同組合に確認していきます。

**問** 町村合併以降、潮干狩り場の開設について、九十九里漁業協同組合との相談や協議の有無について伺います。

**答** 産業振興部長 私が、産業振興部長を拝命した令和3年度以降は、まだそのような機会はありませんが、以前、実務担当者間において、打合せ等を数回行ったと聞いています。

**問** 海岸入口の設備については、海岸ごとに大きな違いがあると感じています。例えば、本須賀海岸は、駐車場やトイレ、シャワー設備が充実し、海岸近くまでの車の乗り入れが可能です。しかし、ほかの海岸には常設トイレがなく、海岸入口に門扉が設置されているため、観光客が海岸近くまで行くことが困難な状況です。

**答** 産業振興部長 本須賀海岸は、年間を通して、公共の駐車場とトイレ・シャワー施設を提供しています。その他の海岸に関しては、海水浴場開設期間は、門扉を開錠し、海岸近くの駐車場を利用いただくとともに、仮設トイレを設置することで、海水浴客に対応しています。

すべての海岸に、通年利用可能な駐車場やトイレ・シャワー施設を整備することは、本市の財政状況を鑑みると、困難であると考えます。

**問** 房総九十九里浜のビーチラインの海岸の中で、唯一、海岸入口が門扉で閉ざされているのが、山武市の海岸です。

**答** 年間を通して、観光客に海岸を楽しんでいただくため、門扉を撤去することはできないのか、見解を伺います。

**答** 産業振興部長 海岸入口の門扉は、県立九十九里自然公園の特別地域に指定されている自然環境を、無秩序な車両等の乗り入れで破壊されないよう、平成10年4月から、県が設置しているものであり、海岸の管理上、必要な設備であると考えます。

また、地元地域の皆様からは、密猟の抑止やごみの不法投棄防止となることから、海水浴場開設期間以外は、門扉を開錠しないよう要望も出ています。

**問** 蓮沼海浜公園周辺の保安林の中には、栗山川から木戸川まで約5キロメートルの遊歩道があります。

**答** 観光資源である、遊歩道の有効的な活用について、見解を伺います。

**答** 産業振興部長 保安林の中の遊歩道は、県の北部林業事務所による管理となりますが、現在、その維持管理が十分にされずに草木等が生い茂って

いることから、利用困難な状況となっております。

観光客や地元地域の皆様が利用できるように、適正な維持管理について、千葉県に要望していきます。

**問** 本須賀海水浴場の国際環境認証「ブルーフラッグ」取得を活用した事業の取組について伺います。

**答** 産業振興部長 美しい海岸を6か所保有し、都内からも比較的近い本市では、令和3年度には、海岸を撮影場所とするテレビCMやミュージックビデオ、写真撮影が、年間約60件行われました。今後は、ロケツアーリズム（映画やテレビ番組等のロケ地を巡る観光）など、持続的な観光振興の取組につながる観光資源として、活かしていきたいと考えています。

また、近年は、コロナ禍で海岸を利用したイベント等は開催できませんでしたが、今後は、感染状況をみながら、民間事業者と連携したスポーツイベント等の開催を検討していきます。

**問** 本市の海岸の魅力、または、ポテンシャルについて、市長の見解を伺います。

**答** 市長 約8キロメートルにわたる、美しく豊かな海岸を有効的に活用し、海岸地域全体を盛り上げていくことは、本市の観光振興と地域経済活性化のためには、必要不可欠であると

考えます。

そこで、現在、九十九里海岸を擁する自治体に対して、海岸を活かした地域振興策等を協議する場の創設に向けて働きかけを行っています。

また、県が計画している蓮沼海浜公園再整備事業に関しても、地元地域の方々の声を聞きながら、関係機関と連絡調整をしっかりと行い、持続可能な活気ある海岸を目指し、取り組んでいきます。

## 教育行政について

**問** 学校図書の数と、コロナ禍における小中学校図書室の利用状況について伺います。

**答** 教育部長 本市の小学校の平均蔵書数は8434冊、中学校の平均蔵書数は1万1500冊です。これは、学級数に応じて定められている標準蔵書数を大きく超える蔵書数であり、本市は、図書室における本の冊数は充実していると考えています。

利用状況ですが、バーコードシステムを通して貸出した本の冊数は、令和3年度の1年間で、小学校は1万3275冊、中学校は11500冊です。

なお、図書室の利用としては、貸出し以外にも、読書の時間での活用、調べ学習での活用もあります。



## ブルーフラッグ認証について

**問** 海の清掃活動で回収される、ごみの年間量について伺います。

**答** 産業振興部長 令和3年度の海岸清掃とビーチクリーン活動によって回収したごみの量は、約55トンです。

近年は海水浴場が開設できませんでしたが、ごみの量はなかなか減らないのが現状です。

**問** 海のごみの7割は、川から流れてくると言われていますが、その流入するごみの対策について伺います。

**答** 産業振興部長 海岸の河口付近でごみを発見した場合は、すぐに回収作業を行っており、ごみの堆積や悪臭の発生を未然に防止するよう努めています。

**問** シルバー人材センターで回収した、不法投棄ごみの量を伺います。

**答** 建設環境部長 本年4月の地域パトロールで回収した1か月間のごみの量は、山武地域で169袋の390

キログラム、松尾・蓮沼地域で157袋の400キログラムが、山武郡市環境衛生組合に持ち込まれています。

また、成東地域では、東金市外三市町清掃組合でごみ処理を行う関係上、直接持ち込みによる計量を行っていませんが、189袋のごみが回収されたとの報告がありました。

**問** ごみのポイ捨ては、さまざまな法律により禁止されており、罰せられる行為であることをより広く周知するため、市のホームページや広報等の活用が可能であるか伺います。

**答** 建設環境部長 ホームページや広報等により、注意喚起を積極的に行うなど、ごみがポイ捨てされないよう、啓発に努めます。

## 教育行政について

**問** 他自治体で導入事例のある「心の天気」という、生徒の心の状態が把握できるアプリの導入について伺います。

**答** 教育部長 現在、いじめの早期発見の手立てとして、日常の児童生徒の様子を観察に加え、定期的な教育相談やアンケート調査を実施しています。

また、スマートフォンや自宅パソコン等から、市の相談窓口にご相談できる体制も構築されています。

なお、1人1台配備されているタブレットパソコンには「心の天気」に類似

するシステムがすでに整備されており、その活用を今後検討していきます。

**問** 国が策定した学校図書館の整備計画で柱とされている、学校への新聞の配備について、現状を伺います。

**答** 教育部長 図書室に新聞を配備している学校は、2校です。その他職員室で活用した新聞を早い時間に図書室に置くことで、少なくとも各校1紙は配備されるようになっていきます。

**問** 小学校の図書室への、子ども新聞の配備について伺います。

**答** 教育部長 子ども新聞は、新聞社によって発行ペースが異なり、日刊で月1800円、週刊で月1000円程度の費用がかかります。

なお、購入は学校ごとの裁量として、各学校の予算内であれば、配備は可能と考えます。

**問** 学校図書が配置されたモデル校の創設について伺います。

**答** 教育部長 本市では、2名の図書支援員がすべての学校を回っており、主な活動内容は、本の整理や古い本の修理、貸し出し用のパソコン管理や掲示物の作成、本の紹介などを行っています。

また、市内図書館と連携し、図書の充実を図っています。これは、学校図書と同様な位置付けとして考えており、現在の運用を維持していきたいと考えます。